

## 地域包括ケアの社会臨床とマネジメント

学籍番号 2020P10024  
氏名 松本麻子  
指導教員 工藤一成

### 【要約】

**キーワード：地域包括ケアの再構築、信頼と「頻度・密度・越境」、臨床倫理**

「在宅ケア」や「施設ケア」と並び、疾病や障害などで支援を必要とする人をケアする「場」とその「機能」についての概念である「地域ケア」は、2013年12月に成立した「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」において「地域包括ケア」として制度的に位置づけられた。しかし、住み慣れた地域で医療、介護、住まい、生活支援などの制度・非制度的要素を一体的に提供するという「地域包括ケア」の本質や機能がどのようなものなのかについて明確に説明し実践できる人は未だに多くないという実感がある。

その理由としては、①これまでの地域包括ケアにおいては、その構成要素のみが説明され、②親密な支え合いや信頼という家族機能が当然に存在し、機能しているという暗黙の前提があり、③各要素を介在し、実際にケアを担う「ヒト」の心や動き、つまりケアの担い手は誰かということやその人間としての営みが不明瞭で、議論の俎上に上ることも少なく、さらには、④それらの構成要素が一体的・効率的に提供される体制づくりが必要だという抽象的なスローガンにとどまっているということが指摘できる。

以上の問題意識にもとづき、本研究では先行研究や文献、筆者の職業経験を含む臨床例によって「地域包括ケア」の概念やマネジメント、ガバナンスの在り方について明らかにするとともに、その担い手としての保健師の役割や倫理観を再構築していきたい。また、地域包括ケアの非制度的な構成要素である地域コミュニティにおける互助組織の基本的特性や、それらの組織や人が担っている家族機能の役割・機能、またそれらと医療介護など制度的要素との関係性についても明らかにしていきたい。

第1章及び第2章では本研究の背景・目的とケア概念の整理を行い、第3章においては、地域包括ケアに関する筆者の問題意識をヒアリングや各種の資料で検証していく。さらに第4章では、筆者が実際に経験した臨床例をもとに、医療や福祉サービスと家族機能の相互関係、さらにはそれらの相互関係が地域包括ケアとして機能するための調整者としての筆者との関係性を分析する。

以上の論考にもとづき、第5章においては医療や福祉などの制度的サービスと家族機能という非制度的サービスをつなぐ「ケアの担い手としてのヒト」について考察し、地域包括ケアの本質は「信頼」の在りようにもとづく、「ヒトの営み」としての制度・非制度の調整機能であり、それらが有効に機能するためにはケアを担う専門職や周囲の人々が対象者と関わる「頻度」と「密度」、さらには「越境」という実践が重要であることを検証する。以上の考察を踏まえ、保健師としての筆者自身の専門性を再構築するとともに、チームマネジメントや知識マネジメントにもとづいて、地域包括ケアの実践に必要な人材とその育成方法までを提案することとしたい。